

・WHO がジカウイルス流行に関する緊急事態を解除

WHO は 2016 年 2 月に、中南米などで流行を拡大させているジカウイルス感染症の流行に対して、国際的な公衆衛生上の緊急事態であることを宣言しました。その後もジカウイルス感染症は中南米で流行を続けており、8 月からは東南アジアでも患者発生がみられていますが、WHO は 11 月 18 日にこの緊急事態を解除する旨を発表しました(WHO statement 2016-11-18)。これは流行が終息したことを意味するのではなく、今後、長期的な対策を実施するための対応です。日本の外務省も、「流行地域への妊婦の渡航は引き続き控えるように」との勧告を出しています(外務省海外安全 HP 2016-11-22)。

なお、中南米で流行しているウイルスは、妊婦が感染すると胎児に小頭症などの健康障害をおこすことがあります。10 月には東南アジアのタイでも、ジカウイルス感染にともなう小頭症の新生児が確認されましたが、今回、ベトナムでも同様の新生児が確認されています(WHO 2016-11-8)。東南アジアについても妊婦の渡航は控えるようにしましょう。

・東アジアで鳥インフルエンザ H5N6 型の流行が拡大

中国では 2014 年以来、H5N6 型の鳥インフルエンザウイルスに感染した患者が 14 人発生しており、うち 6 人が死亡しました(WHO 2016-11-17)。2016 年 11 月には湖南省で 47 歳の女性が発病し死亡しています(FAO 2016-11-21)。このウイルスは 11 月から韓国でも拡大しており、野鳥などから検出されています(農林水産省 HP 2016-11-16)。また、日本の鹿児島県でも 11 月中旬にツルが生息する池の水から H5N6 型ウイルスが検出されました(農林水産省 HP 2016-11-18)。北海道や秋田でも野鳥の感染を疑う事例が発生しており、今後、東アジア全域で警戒が必要です。

・アジアでのデング熱流行状況

シンガポールでは 2016 年に 1 万 2000 人のデング熱患者が発生しています。昨年の 40% 増ですが、流行は次第に下火になっています(WHO 西太平洋 2016-11-15)。ベトナムでも今年には 6 万人以上の患者が発生しており、これは昨年の倍近い数です。

インドでもデング熱の患者数が増加しており、10 月末までに北部のウッタル・プラデーシュ州では 1 万人の患者が発生しました(ProMed 2017-11-7)。ニューデリーではデング熱とともに、蚊に媒介されるチクングニア熱の患者も多発しており、その数は 1 万人近くにのぼっています(ProMed 2017-11-7)。

・台湾での狂犬病の流行状況

台湾では 1960 年代に狂犬病が根絶されていましたが、最近になり動物の間で再燃がみられています。2013 年以來、動物の狂犬病は全土で 549 例確認されており、はアナグマやハクビシンから

の検出が多くなっています(ProMed 2016-11-22)。こうした感染動物に咬まれたヒトの事例も報告されていますが、ヒトで発病した例はありません。

・アメリカ大陸でのチクングニア熱流行状況

2016 年はアメリカ大陸全体でチクングニア熱の患者が 31 万人確認されています(米州保健機関 2016-11-11)。昨年同時期の 59 万人に比べると減少していますが、ブラジルでは 2015 年の 1 万人から今年は 23 万人と大きく増加しました。チクングニア熱はデング熱と同様にネッタイシマカに媒介される疾患です。昼間吸血する習性があるため、流行地域ではこの時間帯の防蚊対策を行ってください。